

FREE 無料

泉州の歴史再発見!

Powered by 歴史人

Senshu Jin

# 泉州人

vol.3

## 奥深い!



### 泉州の地

古代からの  
優れた技術が生きる



泉州  
古代の魅力  
再発見!

南北朝の政治的重要スポット  
「浜」の高石、歴史散歩

“優れた”文芸も誕生!

偉人たちが想いを馳せた景色を見つめる

歴史が裏打ち。  
堺の伝統の技



## うまい!





# 古代からの

# 優れた

# 技術が生きる

# 泉州の地



今回取り上げるのは「泉州北部」の3自治体です

「泉州」とは、大和川以南の大阪湾岸沿いに連なる、堺市、高石市、泉大津市、和泉市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町という9市4町の総称。8世紀に定められた旧国名の和泉国の別称でもあります。地域にフォーカスした「泉州人」第三弾は、泉州北部の魅力をつぶりとお届けします。大阪湾岸のこの地域は、古墳時代に大陸から優れた技術がもたらされ、「万葉集」に読まれた高師浜などもある風光明媚な地に、工芸、文芸なども発達。海の恵みも存分に楽しめる、歴史から文化、食まで多様な魅力が詰まった地域です。

- 4 奥深い！ 南北朝の政治的重要スポット「浜」の高石、歴史散歩
- 8 奥深い！ “優れた”文芸も誕生！ 偉人たちが想いを馳せた景色を見つめる
- 12 奥深い！ 泉州・古代の魅力再発見！
- 16 うまい！ 歴史が裏打ち。堺の伝統の技 漁港へ出かけよう！ **Vol.3** 堺出島漁港
- 17 泉州北部3自治体 国・大阪府・市指定 および国登録文化財一覧
- 18

## 打刃物



## 和泉蜻蛉玉



## お茶



泉州にはこんな名物があります

### 泉州北部の歴史

旧石器時代にはすでに人が暮らしており、弥生時代になると「池上曾根遺跡」に見られる、全国有数の集落も誕生した。また、古代から外国との海上交易が発達しており、百舌鳥古墳群に代表される天皇陵墓が造られたのは、威容を交易船に見せつけるためだったとも考えられている。

奈良時代になると「万葉集」の歌枕に高師浜が登場し、江戸時代には歌川広重が「六十余州名所図会」に「高師のはま」を描いたほど、良き地として全国に知られていた。政治の分野では、南北朝から戦国時代にかけての重要拠点と位置づけられ、外国との交易が堺で盛になると、商人や武家が泉州北部に集まるようになる。

明治30年(1897)に、南海電鉄南海本線が開通。それを契機に開発が始まり、昭和36年(1961)には泉北臨海工業地が形成された。

3 ※貝塚市の「塚」は略字を使用しています。



# 奥大深し！！

南北朝の政治的重要スポット

## 「浜」の高石、歴史散歩

海岸線に白砂青松が広がっていた高師浜を中心とするエリアは、古代には技術者集団の優れた技術が集まり、戦国期には武士も注目。数々の歴史の名残を見ることが出来る高石を、歩いてみよう。



六十余州名所図会 和泉 高師のはま  
歌川広重作（国立国会図書館蔵）。江戸時代には全国に知られるほど美しい白砂青松が広がっていた高師浜。当時は多くの人を、美しい景色が迎えていた。

### 浜だったがゆえに技術が集まりやがて界限随一の水辺に



高石神社は、白雉元年（650）より鎮座する古社。もともと、数々の和歌に詠まれてきた高師浜の松林の中に境内があり、西側には昔の松も残る。

### 【旧高師浜歴史スポットMAP】



南海高師浜駅は、高級住宅地として開発された周辺の街並みに合わせ、ステンドグラスを配した西洋風の駅舎に。  
「行基誕生之地」と伝わる高師浜一丁目付近。行基の社会事業に従事した工人の子孫の集落とも言われている。

### 古代には先進的技術がすでにこの地にあった

高石市の沿岸部には、古代に朝鮮半島の百濟から渡来した王仁の後裔にあたる高志氏が居住していたという。学者だった王仁は、もともとは中国の出身であったと伝わる。江戸時代に編纂された『和泉名所図会』には、かつて高石神社で王仁が祀られていたことが記されている。  
王仁は、技術者の集団を引き連れていたらしく、一族は宮中の建築に

従事する工人として内匠寮に属していた。そのため、近代にいたるまで高石の人々は、多くが御所の造営・修築に従事していたのだという。

また、奈良時代に社会事業を主導した僧の行基も高志氏の一族で、この地域の出身とされる。行基の生誕地には諸説あるものの、この地が古くから先進的な技術によって社会を革新してきたことは間違いない。

高石神社の周辺は高師浜と呼ばれているが、これはかつて沿岸部が「浜」だったためである。今となってはまったく想像もつかないほどであるが、かつての海岸には白砂青松が広がっていた。高石神社に今も残る松林は、海岸線の名残とみられる。

奈良時代末期には成立していたとされる『万葉集』にも、高師浜を詠んだ和歌が収められている。その後枕ともなっている。歌枕とは、和歌に詠み込まれる名所や旧跡などを指す。南北朝時代には、高石神社の北東に大雄寺が創建されており、この寺が浜寺と呼ばれることもない。一帯の地名も「浜寺」といわれるようになった。

江戸時代に歌川広重が日本全国の名所を描いた「六十余州名所図会」を制作しているが、このうち、高石市を含む和泉国の名所は、「高師のはま」であった。「高師のはま」では、白砂青松の沖合に船が浮かぶ雄大な

風景が描かれている。

### 近世以降発達したまちに

かつての名残を探そう  
「浜」の風景が一変したのは、近代になつてのことである。現在の南海電鉄南海本線が明治30年（1897）に開通すると、日露戦争を契機として、ロシア兵の捕虜を収容する「浜寺俘虜収容所」が設けられた。日露戦争では、約7万2000人のロシア兵が俘虜（捕虜）として日本全国29か所の収容所に送られている。このうち浜寺には約2万8000人が収容されており、全体の38%におよぶ。収容所の遺構は残らないが、浜寺公園内の大阪国際ユースホテル・大阪府羽衣青少年センターの前に「日露友好之像」が建てられている。

このうち、南海電気鉄道の支線として大正8年（1919）に羽衣駅から高師浜駅までが開通すると、収容所の跡地には公共施設や学校が建てられたほか、高級住宅地として再開発される。海岸は、「東洋一の海水浴場」としても人気を博していった。

しかし、昭和36年（1961）から高師浜の沖に泉北臨海工業地が造成されると、白砂青松はほとんど消滅してしまう。「浜」の面影は、高石漁港の北側にわずか50mほどの砂浜として残る。かつての歌人も詠んだ風景を目にし、高石の歴史に思いをはせてみてはいかがだろうか。

170年超続く老舗茶本舗



### つぼ市製茶本舗

嘉永3年（1850）、初代の谷本市兵衛が、茶聖・千利休の故郷・堺に創業。現在、本社や工場、直売所が高石市にあり、充填・詰めたての新鮮なお茶を購入できる。



# 大雄寺と

## 戦国時代の水軍拠点だった

# 綾井城

高石のまちは、南北朝時代から、政治的・軍事的にも要衝だった。往時の名残を訪ねて、地域の成り立ちに想いを馳せてみよう。

### 浜寺の由来、そして意味。南朝の重要拠点として

堺市の西区から高石市にかけての大阪湾沿岸には、浜寺公園という広大な大阪府営公園が広がっている。園内は豊かな松林が広がり、かつて白砂青松の海水浴場として人々に愛された。公園の名称にも使われている「浜寺」の地名は、「浜の寺」と呼ばれる大雄寺という寺院が公園の南、南海電鉄高師浜線伽羅橋駅のあたりに存在したことから生まれた。

なぜ浜の寺か？その由来は南北朝の戦乱時代に遡る。後醍醐天皇にゆかりの深い南朝方の拠点・吉野山の日雄寺が「山の寺」「吉野の山寺」と呼ばれていたのに対し、後醍醐天皇の子・後村上天皇が、父が厚く信頼した三光国師（孤峯覚明）に創建させたという。大雄寺はやがて壮大な

伽藍を営み、一大要塞となった。そして浜にある寺ということで「浜の寺」「高師の浜寺」と呼ばれ、やがて「浜寺」の地名が定着したのだ。

ではなぜ浜寺が南朝方の重要な拠点だったのだろうか？ひとつは、ここが吉野を本拠として京の奪還を狙う南朝にとつての最前線だったこと。もうひとつが、海際だったことだ。

浜が海に面しているのは当たり前前だ」と思われるだろうが、浜寺一帯には鞆田浦・高磯浦（ちなみに「高石」もかつては「たかし」と読み、高磯・高師と同じ意味を持つ）が構成する「天鳥郷浦」が広がり、小型漁船が頻繁に出入りする優良な「海の玄関」だった。大型の和船登陸は遣明船の開始まで待たなければならぬ時代のこと、当時としては小型船こそが海の主役だった。

その玄関口を押さえる浜寺こそ、



**大雄寺跡** 南北朝時代に南朝方の三光国師が建て、南朝の拠点であったと伝わる大雄寺。府道219号信太石線沿いに石碑が建てられている。

さらに南へキロほど進んで行くと、城蹟山専稱寺という浄土宗の別格寺院に行き当たると、その山号からも一目瞭然なように、城の跡である。山門前（東面）から北面にかけては水堀跡も保存されている。さらに境内の西部に土塁の存在も確認されており、往時は綾井城と呼ばれた。南

氏（沼氏）が綾井城に入るのだが、海上においても浜寺と綾井の制海権争いが続いたことだろう。

北朝時代には北朝方の和泉の土豪・田代頭綱がこの綾井城を守って和泉守護（北町方）に「城を（しっかり）警護しておりますので、いつでも兵の招集や出陣が可能です」という意味の報告をしたが、これは綾井城が南朝方の大雄寺（浜寺）に対抗する拠点だったことを意味する。さらに南には北朝方の岸和田古城があり、和泉氏が守護代の松浦氏とともに守っていた。松浦氏は九州平戸の松浦氏の一族と考えられ、北朝方は北朝方で九州との連絡を確保する動きを進めていたことが分かる。

その後、和泉氏の重臣である沼間

そして松浦氏と同列になるまで格を向上させた。天正4年（1576）7月、毛利軍が大坂へ向かうと、住吉浜に駐屯していた沼間勢が動員され織田水軍の一角として大坂湾の木津川口で戦い、大敗を喫する。沼間義清（清成の子）・同伊賀・同伝内も討ち死に。だが、清成はその後も織田水軍として活動を続けた。ある意味敵の浜寺が沼間水軍を生み育てたと言えよう。現在浜寺は公園西側の埋め立て地との間の水路が大学ポーター部などの練習場となっており、往年の船の行き来のありさまを偲ばせてくれているのである。

この地に綾井城があったことを示す碑。寺の外周には濠の一部があり、城の面影を残している



### 綾井城跡（専稱寺）

高石市にかつてあった綾井城の城跡には現在、専稱寺が立つ。お寺の名前が刻まれている珍しい御城印がある。



綾井城主を遠祖とする井上家。国の登録有形文化財に指定されている邸宅の一角には、「綾井の清水」がある。綾織のように美しい水が湧くこの清水から、一帯が「綾井」という名になったと伝わる。



芦田川に架けられる紀州街道の石橋。昭和63年（1988）に芦田川の改修工事に伴い、高砂公園に移設にされた。



吉野から海上ルートで四国の伊予や九州の太宰府など南朝方の重要拠点と連携するための政治と軍事・経済の生命線。のちに大雄寺は同じ臨済宗の京・南禅寺にも比肩するほどの学問のメッカにもなるが、浜寺がいかに栄え、情報と物資の集散地として機能していたかの証明である。

さらにも高石にはこういう古歌が残されていることを紹介しておこう。「おほともの高師の浜の松が根を枕き寝れど家し偲はゆ」

（万葉集）

奈良時代末期に成立した歌集に載る歌だが、「おほとも」は「大伴」であり、高石は大和朝廷の軍事を担当していた大伴氏の領地だったことが窺える。浜寺は当時から軍事の要衝だったのである。

### 南北朝の制海権争いが生んだ綾井城の沼間水軍

他にも傍証がある。大雄寺跡から

## 明治時代からの主産業だった 貝細工

### 農家の副業として盛んになっていく

江戸時代、堺で家具づくりや塗物づくりが盛んになった頃、高石市の千代田一帯で、漆工芸の技法である螺細に端を発すると考えられる貝細工が興った。高石の貝細工は薄の貝摺りと呼ばれるもので、明治時代後期に始まったと考えられている。当時はおもに農家の副業として貝細工が行われていたが、そこに着目したのは、高石南村の村田正五郎という人物だった。村田氏は明治29年（1896）、佐伯兼松という人物を高石に招いて、小さな工場を始める。その後、国内では漆器や装飾品の材料として工芸を中心に、海外の家具向けに輸出もされるなど、幅広く需要が拡大していくこととなった。大正時代には旧高石町の農家のうち150戸ほどが貝殻の加工に携わっており、1900年代初頭には、14～15軒の工房・工場が稼働していた。

### 300年近く続いたが時代と共に消えた

高石の貝細工に使われる原材料の貝は鮑貝、サザエ、黒蝶貝、白蝶貝、夜光貝、メキシコ貝が多かったようだ。昭和30年代頃に最盛期を迎えたが、徐々に需要が減少し、工場も少しずつなくなっていく。貝細工企業の最後の1社は、現在和泉市で営業している。



光の当たり方で輝きが変化するのも貝細工の美しさの特徴。工芸のほか、アクセサリーなどでも使われている。



# 奥大深し！！

## 「優れた」文芸も誕生！

偉人たちが想いを馳せた景色を見つめる

平安時代に活躍した陰陽師・安倍晴明の伝承が残る信太森、そして万葉の歌人に愛された現在の南海電鉄高師浜線界隈。堺市や和泉市あたりは、中世文芸の集積地でもあった。



信太森葛葉稲荷神社 陰陽師・安倍晴明が信太の森の白狐を母として生まれたという「葛葉伝説」の舞台としても知られている。

### もうひとつの

## 「葛の葉伝説」の地

### 「葛の葉伝説」の 場面を彩った鏡池へ

陰陽師・安倍晴明の誕生譚ともされる「葛の葉伝説」の内容と歴史的・文化的な広がりや、イラストや民俗資料を通して分かりやすく紹介している和泉市の施設。信太の森の鏡池史跡公園内にあり、ほかにも子別れのシーンをモチーフにしたモニュメントも設置されている。

### 信太の森 ふるさと館

【住所】和泉市王子町 914-1  
【電話】0725-45-0605 営業：10時～17時  
【休日】月曜日（祝日の場合翌日）  
【料金】入館無料



葛の葉伝説をモチーフにした歌舞伎の場面を描いた浮世絵や、江戸時代に刊行された「泉州信太白虎伝」などの資料を展示。



時、狩人に追われていた葛の葉狐を助け、後に晴明が生まれたという。

実在の人物でありながら安倍晴明の生涯は、その後も多くの伝承に彩られている。平安時代後期の『今昔物語』では式神を自在に操り、不可思議な力を発揮する異能者として登場。江戸時代の享保19年（1734）には、安倍晴明誕生の物語を脚色した浄瑠璃「芦屋道満大内鑑」が大坂の竹本座で初演され、人気を博した。後に歌舞伎でも大当たりし、晴明の名は稀代の陰陽師として世に広まった。

和銅元年（708）創建、泉州屈指の古社・信太森神社は今、京都の晴明神社・大阪の安倍晴明神社とともに安倍晴明ファンの聖地でもある。

信太の森、葛の葉を題材にした文芸も多い。清少納言『枕草子』に記されたとおり、古くから森といえれば信太の森である。神社の境内に和泉式部の歌碑「秋風はすこし吹くとも葛の葉のうらみがほにはみへじとぞおも」や、芭蕉の句碑「葛の葉の表見せけりけさの霜」が建つ。和泉式部と芭蕉の作はどちらも、葛の葉狐の歌「恋しくはたづねきてみよ和泉なる信太の森のうらみくずの葉」を踏まえて詠んだもの。この歌も境内の御影石に刻まれ、狐の碑と呼ばれて、我

### 千枝の楠

樹齢2000年以上。清少納言が「森は信太森」と『枕草子』に記し、和歌の題になってきたご神木は、和泉市指定天然記念物。



千利休がついた



### 泉の燈籠

信太森葛葉稲荷神社には、千利休作と伝わる燈籠がある。よく見ると、燈籠の上にもちこんとフクロウが乗っていてかわいい。

### 和泉の伝承と歌に息づく 安倍晴明のロマン

和泉市の信太森神社は平安時代の陰陽師・安倍晴明の母の生地。母は葛の葉と呼ばれる白狐で、神社所在



### 子安石

子宝、安産を願う子安石。安倍晴明が遙拝したとの伝承があり、安倍晴明遙拝の石とも呼ばれている。

が子の晴明と生き別れた母狐の哀しみを伝えている。安倍晴明にちなむ子安石、遙拝の石とあわせて、物語の世界に思いをめぐらせてみたい。

### 歌枕の地・高師浜 高石と堺の今昔物語

高石市の名は、数々の歌に詠まれた高師浜に由来する。例えば万葉集の「大伴の高師の浜の松が根を枕き寝れど家し偲はゆ」（P7）は、飛鳥時代、持統天皇の難波宮行幸につき従った置始東人が、家に残してきた妻を思う歌。浜辺の風景は昔から男女の心の機微が詠みこまれてきた。高師浜は『百人一首』でも知られ、「音に聞かたかしの浜のあだ波はかけじや袖の濡れもこそすれ」（あなたの言葉は噂に聞く高師の浜のあだ波のようです。私はかかりませんよ。涙で袖を濡らすのはごめんです。男からの誘いをさらりと波に返した歌人の作者は、平安後期に活躍した歌人で女房三十六歌仙の一人、祐子内親王家紀伊。後世、大久保利通がこの歌をもとに、伐採されようとした松を惜しんで一首詠んだ。「音にきく高師の浜のはま松も世のあだ波はのがれざれけり」。この歌は、堺市の浜寺公園に建つ惜松碑に刻まれた。浜寺公園は明

治6年（1873）開設の日本最古の公園のひとつで、高石市の高師浜と隣接。歌に詠まれた松林は伐採をまぬがれ、約5000本の黒松は健在。昭和58年（1983）、「日本の名松100選」に選ばれた。

南海電鉄の高師浜駅からほど近い高石神社にも先述の祐子内親王家紀伊の歌の石碑が建つ。境内には齢を重ねた松の古木もあり、神社を訪れた三条西実隆が、袖の上に吹く松風にあだ浪たてる高師の浜の名を思い起こし、次の歌を詠んだという。「袖の上に松風吹く風やあだ浪の高師の浜の名をも立つらん」

高師浜線は南海本線・羽衣駅からの支線で、伽羅橋駅・高師浜駅の2駅のみミニ路線。大正時代開業のレトロな佇まいを残す高師浜駅は令和3年から高架工事が行われていたが、令和6年4月6日から全線高架化された高師浜線が営業を再開する。歌枕の地の高師浜は鉄道の路線名、駅名にもなっており、親しまれている。

祐子内親王家紀伊の歌は高師浜に隣接の高石漁港の護岸プレートにも刻まれた。歌の中の「あだ波」にちなんだ新仇浪橋も近くに架けられた。高師浜では、現代の駅や港に王朝文化の香りがさりげなく息づいている。

## 陰陽師・安倍晴明伝説が優れた文芸に色を添えた



# 歌枕の地に武家社会の文芸サロン。そして… 「国学」も、泉州なくして誕生なし



和泉式部旧居跡

和泉守・橘道貞の妻となり一時期を和泉国で過ごした中古三十六歌仙・女房三十六歌仙の一人である和泉式部の居宅跡（堺市西区）。



祐子内親王家紀伊の歌碑

祐子内親王の妻・祐子内親王家紀伊が詠んだ百人一首の歌碑が、高石神社内にある。高さ2メートル、裏には天神の文字も見える。



## 戦国〜江戸期を彩る堺・和泉の文芸サロン

中世に興隆した連歌が雅を重んじ、古典の教養をもつ公家や武士によって京都を中心に愛好されたのに対し、戦国〜江戸期は、俳諧が文芸の潮流となっていく。

連歌から派生した俳諧では、新興の富商、庄屋がその主役に躍り出た。新しい時代の担い手となり、進取の気風にあふれた人々が、新しい文芸を切り開いたのである。その有力な拠点となったのが、泉州だった。

連歌から俳諧へとつないだのは堺である。中世以来の繁栄を謳歌した堺には、京都の連歌を代表する連歌師・宗祇が晩年に逗留した。宗祇の高弟の肖相も堺に移り、師から授かった奥義を門人に伝授した。これが世に云う堺伝授。歌学の歴史に名高い出来事である。

やがて堺の町で、町人たちの豊かな経済力を背景にした文芸サロンが育まれた。交流は泉州各地に広がり、村々を治める庄屋たちも輪に加わった。人々が座を囲み、句をつなぐ楽しみは連歌から俳諧へと変貌しつつ、近隣の町と村に、大小のサロンを生み出していくことになる。

戦国時代に近畿の雄として名を馳せた武将・三好長慶が、堺での座にたびたび加わり、句を残していることも興味深い。長慶が堺に建立した入船の風景を知っており、名所絵などでも舟という題材に触れていた。「声を帆にあげて」がのびのびとした表現で、俳諧ならではだ。

若年より俳諧に親しんだ重賢は、明暦3年（1657）、京都俳壇の中心だった貞門（松永貞徳を指導者とする、江戸前期の俳諧の一流派）の撰集『沙金袋』に、自作の句が入集する。以来、堺・大坂で編まれた数々の撰集で句を発表し、和泉を代表する作者となった。

重賢はまた、国学の祖として名高い契沖のパトロンでもあった。契沖は武門に生れながら出家し、高野山での修業、大坂の妙法寺などでの住職を経て古典の研究を志した人物。代表作は現在も万葉学の基礎資料とされる『万葉代匠記』だ。「源氏物語」百人一首』の注釈にも新境地を切り開

## 【堺市・和泉市文芸スポットMAP】



南宗寺は三好家の菩提寺で、茶人の武野紹鷗、千利休が修行し、堺の町衆文化ともゆかりが深い。永禄5年（1562）、弟の三好実休が久米田（岸和田市）で戦死した時、長慶は飯盛山城（大東市）で連歌会の座にいて、「古沼の浅き瀉より野となりて」の句を残して静かに出陣し、人々を感嘆させたという。

ちなみに同時代に生まれた文化の代表格といえば茶の湯だろう。茶の湯は、堺の豪商でもあった武野紹鷗が連歌の「冷えさびる・枯れる」境地からわび茶を編み出し、千利休が完成させた。茶の湯もまた、人々が座を囲むサロンから生まれたといえる。人と人をつなぐ文化の香りは今でも、千利休茶の湯館（さかい利品の杜）で、映像や展示などを通して、その一端に触れられる。

き、国学の礎を築く。久井村（現・和泉市久井町）の辻森家に寛文9年（1669）より住まい、延宝2年（1674）頃、重賢に招かれて万町村（現・和泉市万町）に移っている。約9年間にわたって、契沖は重賢の蔵書をひも解き、学究を深め、執筆に取り組んだ。後世に伝え残る契沖の業績は、学問の意義を理解し、経済面で支援した重賢によって支えられたのである。

重賢は元禄6年（1693）に死去。契沖は重賢が念願とした『泉州志』刊行に助力し、恩義に報いた。契沖を創始者とする国学は、賀茂真淵、本居宣長らに継がれて完成、平田篤胤を経て幕末の尊王攘夷思想の形成にも大きな影響を与えた。国学誕生にまつわる契沖と重賢の出会い、激動の幕末史の伏線だったともいえる。



住吉祭礼図屏風 住吉大社の住吉祭で、神輿が堺の頓宮へ渡ってくる様子を描いた、江戸時代初期の屏風。右隻に堺のまちの賑わいが描かれている。

## 国学誕生を支えた重賢と契沖の絆

江戸期は、和泉（現在の和泉市周辺）も俳諧で活気をみせた。寛文年間（1661〜1673）には、泉州の39か村に暮らす107人の俳人の句が選集に載り、そのうち和泉では15か村44人の俳人が名をつらね、大勢力となっていた。堺の俳壇は富裕な町人層が中心だったが、和泉は村を束ねる庄屋層が主体。江戸期に盛んになった出版が、町と村の文化を育んだのである。

代表的な和泉の俳人に伏屋重賢がいる。その一句「舟歌や声を帆にあげて、諷初」。和泉は海岸線に面していないが、重賢は多くの村々を統べる大庄屋として、川筋の間屋舟の賑わい、近隣の高石や岸和田の港の出船

## 堺の繁栄が生んだ

# うまい！！

堺生まれの日本文化



肉桂餅／につきもち

堺が貿易港として栄えた戦国時代、輸入された肉桂を、食べやすくお餅に混ぜたのが肉桂餅の始まりとされる。ほどよい甘さのこし餡、あと味に残る肉桂のバランスが絶妙。



芥子餅／けしもち

諸外国との国交が盛んだった堺の町で、「本家小嶋」が創案した芥子餅。豊臣時代に入ってから、千利休が好んだことで広く賞賛を集め、名菓として知られるようになった。



お茶文化

千利休が生まれ育ち、茶の湯を大成させた堺。利休の「茶道」は、商人たちの喫茶文化があったからこそ完成されたといえ、今も堺の町では、その文化が受け継がれている。



# 奥大深し！！

## 泉州・古代の魅力再発見！

世界文化遺産の百舌鳥・古市古墳群のうちの世界最大級の墳墓である仁徳天皇陵古墳、池上曾根遺跡に陶器窯跡群など。泉州は古代から、人々の営みがあった。

さまざまな先端技術を古代から誇った泉州地域

全国唯一の弥生文化専門博物館



大阪府立弥生文化博物館

和泉市と泉大津市の境にある、日本唯一の弥生時代の専門博物館。「弥生時代の教科書」と呼ばれるほど、全国の弥生時代を代表する資料が展示されている。池上曾根遺跡に隣接しているため、サイトミュージアム（遺跡博物館）としても機能している。



### 池上曾根遺跡

南北 1.5km、東西 0.6km に広がる、弥生時代中期頃に最も栄えた大環濠集落。約 80 畳の広さを持つ大型建物や、クスノキをくり抜いた直径 2m の井戸などが発掘され、さまざまな遺構を復元した史跡公園として公開されている。



発掘された建物や井戸跡の周辺からは、たくさんの土器や埋納されたたこつぼも見つかった。

泉州地域には、旧石器時代に人類が暮らし始めていた痕跡がある。海に面し背後に山を抱えたこの地勢は、そんな時代から、実に住みやすい地域だったのだろう。その後の縄文人の採集狩猟生活を支え、瀬戸内に面した海上交通の拠点として弥生人や古墳時代の人々にとって暮らしやすく利便性の高い地域だったので、今も大勢の人が暮らしている。



池上曾根史跡公園のインフォメーションセンター「池上曾根弥生情報館」。公園案内のほか、弥生時代の情報も発信。



### 和泉黄金塚古墳

4 世紀末頃に築かれた全長 95 m の前方後円墳。巨大な木棺を粘土で覆った埋葬施設が 3 基並んで見つかリ、卑弥呼が魏に使いを送った景初三年の年号を持つ銅鏡や円筒埴輪（写真右）などが出土。



旧石器時代から新石器時代の縄文時代を経て弥生時代になると、現在の和泉市と泉大津市にまたがって環濠集落が営まれた。全国有数の弥生集落「池上曾根遺跡」である。実に数多くの石製品や土器、木製品が出土している。遺跡に隣接したサイトミュージアム「弥生文化博物館」の展示は一見の価値がある。弥生人の生活や文化がよくわかるので、歴史に初めて触れる小学生の学習の場にもなっている。縄文時代と弥生時代、その時代の分かれ目は徐々に遡り、研究の進展で稲作の始まりについてもこれまでの定説が揺らぎ始めている。しかし弥生

## 土器からやがて、金属へ。泉州の技術力は古代から続く



### 陶器窯跡群

泉北丘陵一帯に広がる、窯業のルーツとなる須恵器（すえき）を焼成した国内最古・最大級の窯跡群。古墳時代から平安時代までの約 500 年間で 850 基以上ともいわれる数の窯が築かれた。

2585 点の須恵器が国の重要文化財



1000 ~ 1200 度で焼成されていた須恵器。年代によって形やつくりが異なり、変遷を知ることができるものとして学術的価値が極めて高い。

文化は、東アジアの先端文化を人がこの国に持ち込んだもので、合理的な稲作や金属器の生産と使用という文化革命が、日本列島にもたらされた時代だといつてよい。現在の大阪湾岸地域は海に面した利便性から大規模な工業地帯となっているが、瀬戸内水路の終点であり始点でもあるこの地域は、古代から海上交通を利用した文化の交流拠点でもあった。古代の堺市周辺は金属器製造のテクノクラート（高度な知識や技術を持った専門家集団）が拠点を置いたと思われ、その伝統は鉄砲鍛冶、刀鍛冶という履歴を現代の包丁製造・自転車製造につなげている。金属生産だけでなく、泉州地域は土器の大生産地域でもあった。古墳時代になると土器は須恵器に進化するが、その一大生産拠点はやはり泉州地域だった。「泉北丘陵窯跡群」、すなわち「陶器窯跡群」である。陶器の記載がある『日本書紀』などにも、「土師氏」らが土器の生産に活躍したことが由緒とともに詳しいが、土師氏は古墳の造成にも技術を発揮した氏族である。陶器窯跡群ではなんと、5 世紀から平安初期の 9 世紀まで、合計すると 1000 基ともいわれる須恵器生産の窯跡が発見されている。ここで生産された須恵器は畿内の広い範囲に運ばれて使われていた。考古学的には窯の編年と須恵器の編年

が、それが発見された古墳の編年推定にも大きく貢献しており、陶器窯跡群の須恵器は、考古学的にも大変重要だ。なお、現在も展示されている登り窯跡があるので、是非実際に見ていただきたい。古墳時代から続く泉州北部地域 この地域は大小の古墳が豊富な地域で、高石市には「富木車塚古墳」や帆立貝式の「大園古墳」など、いずれも古墳自体は喪失しているが、説明板がある。また、和泉市にある 4 世紀末ごろの築造と推定される前方後円墳の「和泉黄金塚古墳」からは、邪馬台国の卑弥呼の時代を示す景初三年銘の「画文帝四神四獣鏡」や巴形銅器の付いた革製盾、鉄製の武器防具類が出土している。これは当時の王墓級の重要な古墳だといえる。ほかに 5 世紀中ごろの帆立貝式「信太貝吹山古墳」や、信太山丘陵西にある前方後円墳の「丸笠山古墳」や、やはり 5 世紀築造だと推定される大阪府下最大の方墳ではないかと考えられている「鍋塚古墳」などがある。律令時代の和泉市域周辺は古代の泉州地域の中心をなしたと考えられ、国府が置かれ国分寺も建立されて現代に続くのだから、実に歴史の古い土地柄である。そして堺市には巨大な古墳が集合している。



# ルーツは奈良時代! 伝統工芸・ 和泉蜻蛉玉

## 神功皇后により 泉州にもたらされた

日本にガラスがもたらされたのは弥生時代中期頃と考えられている。弥生時代後期の遺跡からは、南インドや東南アジアの特徴をもつガラスビーズが見つかり、またこの時代の遺跡からはガラスの勾玉用の鋳型が発見されていることから、2000年ほど前には、国内でガラスの加工が行われていたようだ。

泉州地域では、神功皇后が高麗よりガラス玉の技術者を連れ帰り、和泉国でガラス玉の製作を始めさせたことが、現代につながる蜻蛉玉のはじまりといわれる。

蜻蛉玉とは紐を通す穴があいたガラス玉のことで、古代は権力の象徴として、中世以降は主に装飾品として使われてきた。

## 伝統を受け継ぐ工房が 泉州にはある

江戸時代には「泉州玉」「さかたんぼ」とも呼ばれ、泉州の蜻蛉玉は全国的知名度を誇り、かんざしや玉すだれなどの商品を送り出していた。明治時代に入ると、製造技術が確立。和泉市内ではガラス業が盛んになる。しかし高度経済成長期を過ぎたあたりから、安価な輸入品に押され、ガラスの玉を製造する業者が減り始める。現在は山月工房が、伝統的和泉蜻蛉玉を作り続けている。この和泉蜻蛉玉は大阪府の伝統工芸品に指定されている。



和泉蜻蛉玉の歴史を受け継ぐ工房である山月工房の和泉蜻蛉玉。堺タカシマヤに山月工房の専門店がある。

和泉蜻蛉玉は山月工房の登録商標です。

## 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を知る



### 百舌鳥古墳群ビジターセンター

仁徳天皇陵古墳(大仙陵古墳)拜所東側にあり、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を伝えるガイダンス機能などを備える施設。8K空撮映像で古墳群の雄大さを体感できるシアターのほか、古墳グッズも購入できる。レンタサイクルの貸出しもある。

【住所】堺市堺区百舌鳥夕雲町 2-160  
【電話】072-245-6682  
【営業】9時～18時  
【休日】年末年始  
【料金】入館無料



百舌鳥古墳群の魅力を学ぶ、入門的な展示が多くわかりやすい。シアターでは、壁面や床面に投影する超高精細な映像が人気。百舌鳥・古市古墳群や歴史文化を体感できる。



百舌鳥古墳群を代表する世界最大級の墳墓・仁徳天皇陵古墳(写真上)。これら巨大前方後円墳の周囲には、円墳(右上)や帆立貝形墳(右)といった陪塚と呼ばれる中小の古墳が築かれており、古墳文化の特徴を知ることができる。



### 百舌鳥古墳群

古墳時代の最盛期(4世紀後半から5世紀後半)にかけて築造された、古代日本列島の王たちの墓群。世界でも独特な鍵穴型の前方向後円墳が多数集まり、多数の中小墳墓とともに密集を形成する。古市の古墳群と合わせ、百舌鳥・古市古墳群として世界遺産に登録されている。

# 約400年もの長きにわたり 古墳時代の主役だった

## 堺市の世界遺産 百舌鳥古墳群

堺市には日本最大の巨大古墳を擁する百舌鳥古墳群があり、藤井寺市と羽曳野市にまたがる古市古墳群とともに世界文化遺産に登録されている。日本一の規模を誇るのが、仁徳天皇陵古墳またの名を大仙陵古墳といい、ほかにも天皇陵や陵墓参考地が数多くの陪塚とともにこのエリアに造営されている。

### 【堺市古代スポットMAP】



しかしながら、はたして宮内庁が指定している天皇陵が、本当にその天皇のものかどうかはわかってはいないが、巨大な古墳が存在しているのだから、国家形成期の大王クラスの人々が実在したこともまた真実である。まことに古代に対するロマンの溢れる地域でもある。

百舌鳥古墳群とは、主墳と陪塚で構成された、いくつかのグループの集合体である。主墳はもっとも大きな前方後円墳で、その周囲にいくつも造営されている円墳・方墳・小型の前方後円墳が陪塚と呼ばれ、ひとつ

の集団を形成している。約400年にわたる古墳時代の、主役ともいえる大きな前方後円墳はそのグループの主墳で、その周辺に寄り添うように造営されている同時代の古墳が陪塚だ。墳形や大きさによってその被葬者の出自や位を表現していると考えられている。これを研究すると、その時代の社会を構成したグループの上下関係まで判明すると考えられている。こういう墳形による一種のヒエラルキーが認められるのも、わが国古代の墳墓の特徴である。

さらに面白いのは、ひとまとめに世界遺産に登録された古市古墳群との関係であろう。同じ大阪府の南東よりにある藤井寺市と羽曳野市にま

たがる古市古墳群、ここには誉田御廟山古墳、別名を「応神天皇陵古墳」という全国二位の大きさを誇る古墳がある。つまり第15代応神天皇陵は古市にあり、その皇子であとを継いだ第16代仁徳天皇の陵墓は百舌鳥にあるのだ。このように、古市古墳群と百舌鳥古墳群は順序良く交互に造営されているものがあると考えられている。古代の王墓はその王の拠点に造られる傾向があるので、当時の歴代大王の拠点が古市と百舌鳥にあったということになる。この点も、未解明な大和王権確立当時の権力情勢を推理するのに面白い部分だろう。そのうえ北海道と東北の一部や沖縄を除く、全国に広がる前方後円墳という独特な墳形は、基本形が造営期間ずっと変わらず定型化されている理由もはつきりしていない。

## 古墳群を訪れるべき 大きな理由とは

4世紀後半から5世紀後半に造られ、現代の街なかに今なおその姿を残している古墳群を、さらなる未来に伝える責任が私たちにあり、はたして伝わるのか。また、泉州地域に古くから伝わる和泉蜻蛉玉などの工芸技術を伝承することも大切だろう。奈良時代半ばに創られた奈良市の正倉院にも、蜻蛉玉は宝物として大切に保管されている。そういった文化をはぐくんだ歴史が、どんな風景に溶け込んで残されているのかを、ぜひ現地を訪れて感じてほしい。

今の自分に何らかのかかわりが必ずある古代の息吹を感じてほしい。泉州地域とは古代を実感できるところでもある。



# 堺出島漁港

手ぶらで七輪をレンタルして新鮮な魚介類を買って海鮮バーベキュー！  
土・日曜のみ営業する「とれとれ市」で食べて、買って大満足。



週末限定開催の  
おいしい市へ



南海湊駅から海の方角へ徒歩10分。  
目の前に漁港が広がり、その先には静かな大阪湾が見える。

**大阪湾の旬の魚を直売 鮮魚もその場で楽しめる**  
古来、大阪湾は「茅渚の海」と呼ばれるほど魚介類が豊富で、古くから外国船が入りする港・開港場として栄えた堺出島漁港は、漁業の根拠地としても発展してきた。現在、堺出島漁港ではアジ、イワシ、イカナゴ、スズキ、カレイ、タチウオ、アナゴ、タコなど内湾性の魚介類を対象とする典型的な沿岸漁業を行っているが、昭和33年（1958）以降の堺泉北臨海工業用地造成や関西国際空港の開港により、漁場は大幅に制約されてしまった。

そんななか、堺出島漁港では漁獲物の水揚げ、陸揚げ作業施設を整備し、平成7年（1995）から市民とのふれあい場として「とれとれ市」を開催。毎週土曜と日曜の10時から17時まで、地元漁師が獲れたての魚介類を販売。さらに、マグロカツ南蛮やマグロユッケ、天ぷら、キャベツ焼き、ハンバーグなどを味わえるほか、鮮度抜群の海鮮や干物、肉、野菜などを七輪で焼いて堪能するバーベキューも楽しめる。食材はもちろん、ドリンクも種類豊富に販売し



新鮮魚介が  
いろいろ！



大阪でブランド化された泉州アナゴや泉ダコをはじめ、漁港に水揚げされたばかりの魚介がずらり。バーベキュー用の食材も購入可能。

ているので、手ぶらで訪れても大丈夫。3月に「ワクワククルージング」、8月は「夏休み！ワクワク海験」、10月には「堺港まつり」など様々なイベントを開催するため、多くの来場者で毎週にぎわっている。食べて、買って、大満足のお得市を満喫しよう。



この場で  
焼いて食べよう！



バーベキュー場には屋根が付いているので、急に雨が降ってきてでも安心。マグロの尻尾など漁港ならではの珍しい食材に出会えることもある。

旬の味をいただく！



バーベキューは食材の持ち込みが禁止のため、「とれとれ市」で購入した食材や食材付きプランの利用を。旬の食材の海鮮丼や天ぷら、生本鮪頭肉食べ尽くし丼などご飯物も充実している。



長く使っても  
色褪せない  
**注染**



浪華本染め「注染」は、明治時代に大阪で生まれた染色技法で、日本の染め物の歴史に新しい風を吹き込んだ。おもに手ぬぐいや浴衣に用いられ、職人が手作業で表裏両面から染めるため、使い込んでも色褪せにくい。国の伝統的工芸品に指定されている。



**打刃物**  
日本の刃物の  
六大産地のひとつ



600年の歴史があり、中でも鑄造・刃付け・柄付けの分業制により職人が一本ずつ手作りで仕上げる「堺打刃物」が有名。極上の切れ味は、世界の料理人たちからも絶大な支持を集める。国の伝統的工芸品にも指定されている。

## うまい！！ 歴史が裏打ち。堺の伝統の技

「ものの始まりなんでも堺」といわれるほど歴史や文化が多く育まれた堺。堺打刃物や浪華本染め「注染」などの伝統的工芸品をはじめとした貴重な技術が、職人たちによって現代まで連続と受け継がれている。



**昆布**  
北海道から運ぶ  
天然昆布



江戸時代の中頃に、大阪、堺までの航路が開かれ、堺港に大量の昆布が陸揚げされるように。そこから堺の昆布加工業は本格的に発達した。現在は「おぼろ」と「とろろ」の加工が中心で、おぼろ昆布は職人によって手作りで加工されている。



**線香**  
天然香料の  
「香りの芸術品」



16世紀頃に中国から製法が伝わり、当時の堺は貿易港であり、原料の香木が集まりやすかったこと、京都、奈良について寺院が多いこともあって、堺でいち早く製造されたと伝わる天然香料の線香。大阪府の伝統工芸品にも指定されている。



# 泉州北部 3 自治体

# 国・大阪府・市指定および

# 国登録文化財一覧

泉州の北部に位置する 3 自治体、高石市・堺市・和泉市の国および大阪府・市による、指定・登録等の文化財を一覧にご紹介します。

※一般公開していない文化財も含む。訪れる際には事前に確認を。

## 【高石市】

指定等	区分	分野	名称	所有者(管理者)
国 指定	<b>重</b>	工芸品	無銘 正宗(名物 伏見正宗) 附:腰刀拵	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物	井上家住宅(主屋・長屋門・蔵・油屋・茶屋)	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物	伽羅橋	高石市
府 指定	<b>有</b>	彫刻	専稱寺 木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍像	専稱寺

## 【堺市】

指定等	区分	分野	名称	所有者(管理者)
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	大安寺本堂	大安寺
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	海会寺本堂・庫裏及び門廊	海会寺
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	山口家住宅	堺市
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	南宗寺 仏殿・山門・唐門	南宗寺
国 指定	<b>重</b>	建造物(工作物)	旧浄土寺 九重塔	堺市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 沢庵和尚像	祥雲寺
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 釈迦二声聞像	祥雲寺
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本著色 大寺縁起 絵 土佐光起筆 附:筆者目録(1巻)	開口神社
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 閻魔王図	長泉寺
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本金地著色紙本墨画 大安寺本堂障壁画	大安寺
国 指定	<b>重</b>	美工(彫刻)	木造 観音菩薩立像	堺市
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	脇差 朱銘 長義	妙圓寺
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	短刀 銘 国光 附:緋黒絞柄及白鞘	妙圓寺
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	短刀 銘 吉光	開口神社
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	漆塗太鼓形酒筒	堺市
国 指定	<b>重</b>	美工(書跡等)	紙本墨書 伏見天皇宸翰御歌集	開口神社
国 指定	<b>重</b>	美工(考古)	大阪府陶器窯跡群出土品	堺市
国 指定	<b>重</b>	美工(考古)	大阪府大野寺跡(土塔)出土品	堺市
国 指定	<b>記</b>	史跡	土佐十一烈士墓	堺市
国 指定	<b>記</b>	史跡	旧堺燈台	国、大阪府、堺市
国 指定	<b>記</b>	史跡	百舌鳥古墳群	宮内庁・大阪府・堺市・個人
国 指定	<b>記</b>	名勝	南宗寺庭園	南宗寺
国 指定	<b>記</b>	天然記念物	妙国寺のソテツ	妙圓寺
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	浅香山病院 丘高・西病棟	浅香山病院
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	大阪府立三国丘高等学校同窓会館(旧三丘会館)	大阪府
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	堺市茶室 黄梅庵・伸庵	堺市
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	旧丹治商会 社屋・門及び煉瓦塀	法人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	旧十八屋(樓館)主屋	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物・工作物)	片桐樓龍堂 主屋・東ノ蔵・中ノ蔵・摩利支尊天神社廟・西ノ蔵・洗い場・煉瓦塀	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物・工作物)	清学院 不動堂・庫裏・門	堺市
国 登録	<b>有</b>	建造物(工作物)	旧天王貯水池	堺市
国 認定	<b>美</b>	美工(絵画)	南蛮屏風 6曲1双	堺市
国 認定	<b>美</b>	美工(考古)	袈裟褌文銅鐸 浜寺昭和町出土	堺市
府 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	菅原神社 楼門	菅原神社
府 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	紙本著色 和泉長谷寺縁起	長谷寺
府 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	絹本著色 阿弥陀三尊来迎図	専稱寺
府 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	紙本墨画 大寺縁起下絵	堺市
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 梵天像	常安寺
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 阿弥陀如来立像	常安寺
府 指定	<b>有</b>	美工(工芸品)	慶長大火縄銃	堺市
府 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	開口神社文書	開口神社
府 指定	<b>記</b>	史跡	堺県庁跡	本願寺堺別院
府 指定	<b>記</b>	名勝	祥雲寺庭園	祥雲寺
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	方違神社のくろがねもち	堺市
府 規則指定	<b>美</b>	建造物(工作物)	石造 板状塔婆	堺市
府 規則指定	<b>美</b>	建造物(工作物)	石造 板状塔婆	十輪院
府 規則指定	<b>美</b>	美工(彫刻)	石造地蔵菩薩立像	堺市
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	井上関右衛門家住宅 主屋・座敷棟・道具蔵・儀倉・附属棟	堺市
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	本願寺堺別院本堂・山門・鐘楼・太鼓楼・経蔵・御成門・手水舎・蓮如堂・蓮如堂拜殿	本願寺堺別院
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	紺紙金銀泥 法華經宝塔曼荼羅図	妙法寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	紙本金地著色 住吉祭礼図屏風	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	親鸞聖人絵伝	真宗寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	仏涅槃図	月蔵寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 薬師如来坐像	開口神社
市 指定	<b>有</b>	美工(工芸品)	銅造 梵鐘	本願寺堺別院
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	牡丹花詩集	海会寺
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	中村結鏡御頭次第 (奥野家所蔵本)	個人
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	宝物集 巻第三	妙圓寺

指定等	区分	分野	名称	所有者(管理者)
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	反致裏書(真宗寺本)	真宗寺
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	山上宗二記	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	已行記	妙圓寺
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	行功部分記	妙圓寺
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	芝辻理右衛門家文書	堺市
市 指定	<b>民</b>	無形民俗	住吉大社宿院頼宮の祓神事(荒和大祓神事)	住吉大社
市 指定	<b>有</b>	美工(歴史)	仁徳天皇大仙陵石郭之中ヨリ出シ甲冑之図	個人
市 指定	<b>有</b>	美工(歴史)	世界図・日本図屏風	個人
市 指定	<b>有</b>	美工(歴史)	元禄菱垣廻船模型	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(歴史)	擁護聖(安政地震記念碑)	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(歴史)	放鳥銃定限記碑	堺市
市 指定	<b>民</b>	無形民俗	住吉大社宿院頼宮の祓神事(荒和大祓神事)	住吉大社
市 指定	<b>記</b>	史跡	竜佐山古墳周濠	堺市
市 指定	<b>記</b>	史跡	永山古墳周濠	堺市
市 指定	<b>記</b>	史跡	孫太夫山古墳前方部および周濠	堺市
市 指定	<b>記</b>	名勝	片桐樓龍堂庭園 座敷庭(大仙載) 坪庭・玄関前庭	個人
市 指定	<b>記</b>	名勝	妙圓寺庭園	妙圓寺
国 指定	<b>記</b>	史跡	土塔	大阪府、堺市
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	兒山家住宅 主屋・座敷・離れ・取り合い・内蔵・納屋・外蔵・門長屋・隠居所・土塀	個人
府 指定	<b>民</b>	無形民俗	堺の手織織通	堺市手織織通技術保存協会
府 選択	<b>民</b>	無形(記録選択)	堺の手織織通	堺市手織織通技術保存協会
府 指定	<b>記</b>	史跡	御坊山古墳	堺市中区江之
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	絹本著色 行基菩薩十三歳像	華林寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 不動明王立像	興源寺
市 指定	<b>記</b>	史跡	北村古壘(陶器城跡)	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	西井家住宅 主屋・内土蔵・門長屋	個人
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 牛頭天王坐像	中仙寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	光明本尊	報恩寺
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	日部神社本殿	日部神社
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 行基菩薩行状絵伝	家原寺
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	石燈籠	日部神社
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	太刀 銘真利	法人
国 指定	<b>記</b>	史跡	四ツ池遺跡	国、堺市ほか
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	近江岸家住宅 主屋・外塀	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	南海電気鉄道株式会社南海本線浜寺公園駅駅舎	南海電気鉄道(株)
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	南海電気鉄道株式会社南海本線願戸ノ森駅駅舎	南海電気鉄道(株)
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	小倉家住宅 洋館・門	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物・工作物)	阪之上家住宅 洋館・離れ座敷・蔵・渡廊下・外塀	個人
府 指定	<b>有</b>	建造物(工作物)	家原寺 石造 板碑	家原寺
府 指定	<b>記</b>	史跡	塔塚古墳	個人
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	尾尾のそてつ	個人
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	藤井邸のくろがねもち	個人
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	藤井邸のかや	個人
府 規則指定	<b>記</b>	史跡	家原寺境内	家原寺
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	石津太神社 北本殿 南本殿 拜殿 一の鳥居 二の鳥居	石津太神社
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	日部神社神門	日部神社
市 指定	<b>民</b>	無形民俗	石津太神社のやっさいぼっさい	石津太神社
国 指定	<b>有</b> (国宝)	建造物(建築物)	桜井神社 拜殿	桜井神社
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	法道寺 多宝塔・食堂	法道寺
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	多治速比売神社 本殿	多治速比売神社
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 十六羅漢像	法道寺
国 選択	<b>民</b>	無形(記録選択)	上神谷のこおどり	堺こおどり保存会
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	小谷城郷土館 主屋・正門・南門・土塀	小谷城郷土館
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物・工作物)	小谷家住宅 主屋・正門・南門・土塀	個人
国 認定	<b>美</b>	美工(書跡等)	和漢朗詠抄上巻 金沢文庫本	個人
府 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	絹本著色 星曼荼羅図	宝積院
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 十一面観音立像	観音院
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 阿弥陀如来坐像	観音院
府 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 神像(男神像・菩薩形像・明王形像)	櫻井神社
府 指定	<b>有</b>	美工(工芸品)	石造 燈籠	櫻井神社
府 指定	<b>有</b>	美工(工芸品)	府立大阪博物館旧蔵美術工芸品	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	銅印 印文 當氏之印	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	普賢寺遺跡出土 金銅僧形坐像及び金銅密教法具	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	池上曾根遺跡出土木器	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	銅印 印文 辛丑之印	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	箕面経塚出土品	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	都屋北遺跡出土馬具他	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	難波宮出土土簡他	大阪府

指定等	区分	分野	名称	所有者(管理者)
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	下田遺跡出土銅鐸	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	仏並遺跡出土土簡他	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	三田古墳出土三葉環頭大刀附 同古墳出土鉄剣	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	陶器窯跡群(TG231・232号窯)出土品	大阪府
府 指定	<b>有</b>	美工(考古)	府立大阪博物館旧蔵古銭貨幣類資料他	大阪府
府 指定	<b>民</b>	無形民俗	上神谷のこおどり	堺こおどり保存会
府 指定	<b>記</b>	史跡	高蔵寺73号窯、74号窯跡	堺市
府 規則指定	<b>記</b>	天然記念物	美多弥神社のしりぶかがし社叢	美多弥神社
府 規則指定	<b>記</b>	史跡	陶器山古代窯跡	個人
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	高倉寺 金堂・御影堂・宝起菩薩堂	高倉寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	絹本著色 阿弥陀三尊図	高倉寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	絹本著色 法起菩薩曼荼羅図	法道寺
市 指定	<b>有</b>	美工(絵画)	紙本金地著色 源氏物語図 六曲屏風	小谷城郷土館
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 金剛力士像 附:畔形像胎内納入墨書木札	法道寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	阿弥陀如来坐像	法道寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	真政圓忍律師坐像	放光寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 千手観音立像	柳自治会
市 指定	<b>有</b>	美工(書跡等)	紙本墨書 雜阿含経 卷第三十六	法道寺
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	衝角付青型道輪	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	陶器塚29号墳出土遺物	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	堺環濠都市遺跡出土 銭貨鑄造資料	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	日置荘西町窯跡群出土 須恵器製作用具	堺市
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	堺環濠都市遺跡大阪夏の陣被災遺構出土一括資料(SKT39地点出土品)	堺市
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	高林家住宅 主屋・表門・米蔵・西蔵	個人
国 選定	<b>保</b>	有形関係	規矩術(近世規矩)	青木弘治
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	旧是枝近有邸	個人
国 登録	<b>有</b>	建造物(建築物)	筒井家住宅 主屋・座敷棟・茶室・門長屋・土蔵・土塀	個人
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 十一面観音立像	光明院
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	百舌鳥のくす	個人
府 指定	<b>記</b>	天然記念物	百舌鳥八幡宮のくす	百舌鳥八幡宮
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	愛染院本堂	愛染院
市 指定	<b>有</b>	史跡	黒姫山古墳	国、堺市ほか
府 指定	<b>記</b>	史跡	丹比鹿寺塔跡	国
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	菅生神社 本殿	菅生神社
市 指定	<b>有</b>	建造物(建築物)	法雲寺 山門・天王殿・大雄宝殿・開山堂・方丈・鎮守堂	法雲寺
市 指定	<b>有</b>	美工(彫刻)	木造 薬師如来坐像	平松寺
市 指定	<b>有</b>	美工(考古)	黒姫山古墳出土土甲冑類	堺市

## 【和泉市】

指定等	区分	分野	名称	所有者(管理者)
国 指定	<b>有</b> (国宝)	美工(工芸品)	青磁鳳凰耳花生	和泉市
国 指定	<b>有</b> (国宝)	美工(書跡等)	歌仙歌合	和泉市
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	聖神社 本殿・末社三神社 本殿・末社滝神社 本殿	聖神社
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	泉井上神社境内社和泉五社総社本殿	泉井上神社
国 指定	<b>重</b>	建造物(建築物)	高橋家住宅	個人
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本著色 山王靈驗記	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本著色 駒競行幸絵詞	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本墨画 枯木鳴鶴図	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本著色 伊勢物語絵巻	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本著色 十王経	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 鍾馗図	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 山崎架橋図	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本墨画 達磨図	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	絹本著色 孔雀経曼荼羅図	松尾寺
国 指定	<b>重</b>	美工(絵画)	紙本金地著色 源氏物語図	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(彫刻)	木造 胎蔵界八葉院曼荼羅刻出龕	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	牡丹蝶鳥鏡	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	菊花双鶴鏡	和泉市
国 指定	<b>重</b>	美工(工芸品)	蓮葉山方鏡	和泉市



関西国際空港 Terminal 1  
新国際線エリア 2023.12オープン

# あなたらしい 空港体験を

FUN

GOURMET

SHOPPING

ENJOY

## ENJOY, NEW KIX!



発行人／園部 充 編集人／後藤隆之  
令和6年3月30日発行  
発行所 ABCアーク 〒105-0004 東京都港区新橋6-22-6 JOYFUL 4階

編集 03-3104-5306  
広告 03-3104-5307

FREE 無料

ABCアーク